





の良さや大切さを、他学年の後輩や先生方に少しでもわかってほしい」という思いが、彼らを動かしたのでした。ゴンタグループで話し合った結果かどうか定かではありませんが、「卒業式前日に最後の全体学習をしたい。させてほしい」と先生方に直談判や電話をしたり、他学年に全体学習への参加を呼びかけはじめたのです。

そして3月12日。翌日の卒業式をひかえ、1992年度最後の全体学習が繰り広げられました……。

教師：……昨晚ある子が電話をくれました。話の内容は、最後の全体学習を是非ともやってほしいということでした。先生もその子と同じ思いでいました。みんなの思いをもっともって聞いておきたいし、先生の中にもわかってもらいたい気持ちがいっぱいあります。3年生最後の全体学習に、思うことを出し、語ってほしいと思います。みんなの言葉を待っています。

生徒(DH)：今まで全体学習をしてきて、3年生は初めに比べて十分まとまった学年になってきたと思います。最後の全体学習も、1年生や2年生を交じえた全体学習にしたかったという思いがありましたが、3年生だけの全体学習になってしまいました。あと少しで僕たちは卒業なので、2年生にあとを継いでもらいたいと思っているし、3年生だけになってしまったこの授業を2年生へ贈る言葉として、この全体学習を進めていきたいと思います。

司会をしていた先生の言葉を受け、今回の全体学習を実現させたゴンタグループの代表ともいえる生徒が発言をつなげます。またそれに続いて、この1年間全体学習でいじめ問題を問い続けてきた女の子が、みんなにこう訴えました。

今の発表を濁してしまうような感じになってしまうけど、最近、卒業式の歌の練習をしていたときに、私の友達がいやがらせを受けたそうなんです。その友達が悩んでいる顔をしてきたので、私が「どしたん？」と聞いたら、「隣の組の子にいやがらせを受けた」って、すごく悲しそうに言ったので、私そのとき友達に聞いたんです。「あんたの組の子、何も言わなかったん？」って言ったら、「うん、見ていたけど知らんぶりばかりしよった」ってすごく悲しそうにしていたんです。「いやがらせやった子の友達の〇〇さんも何も言わなかったん？あの子なら言うんとちがうん？」って聞いても「ううん、言わなかった。何も言うてくれなかった……」って言うんです。私すごく腹が立って、その子の組に殴り込みにいこうと思ったんです。「あんなに全体学習で良いことばかり言ってる、実行に移せんのか！」と思って……略……

みんなに言うけど、いじめられてる子が惨めじゃないんです。いじめてる子が惨めな  
 んです。私たちは全然惨めじゃないんです。いじめて差別するということは楽なんです。  
 でも、差別に立ち向かうということはすごく苦しいんです。差別に立ち向かう間は苦し  
 いけど、それを乗り越えた時のうれしさって、もう何とも言えんぐらいうれしいものな  
 んです。私は、この1年ですごく強くなった自分が、何とも言えないぐらいうれしいん  
 です。だから、私の友達にも強くなってほしい。強くなってから何もかもが始まるんだ  
 と思います。……略……

私は私の友達に言いたい。これからもどんどんいやがらせを受けるかもしれないけど  
 差別者の思い通りになって、その人に合わせ、その人を祭り上げると、その差別者は喜  
 んでいるけど、そんな情けない生き方だけはしてほしくない。私たちは差別者の都合の  
 いい人間になっていたらあかんと思う。私は私の友達にかけているんです……略……

いじめ問題と部落問題が結びついてない人が多い中、この女の子は見事に結びつけられ  
 ていました。まさにこの通りだと思います。

この時間中、他にも「お金を取り上げられた友達のことについて」「部活動の本当のあ  
 り方と、今年1年の現状について」「小学校の時、板野中学校に対して抱えてきたイメー  
 ジについて」「自分の陥った不登校について」「親戚が直面している結婚差別について」  
 「いまだに町内外にあふれている被差別部落への偏見について」など、本心を語る真剣な  
 時間が積み重ねられていきました。翌日の卒業式がどれほど感動的な式になったかは、簡  
 単に想像できると思います。ここですべてを詳しく記すことはできませんが、先輩たちの  
 やってきたことを少しでも知っていてほしいなと思います。

(詳しくは「1992年度峠を越えて」を！)



来週から、部落問題意見発表会についての取り組みが  
 各学級で始まります。もうすでに原稿を書き始めているクラスがあるかもしれませんね。

「今まで勉強してきた部落問題学習について」「学習会について」「部落差別の現実につ  
 いて」「親の生きざまについて」「自分自身の生い立ちについて」などなど、日頃から考  
 えていけば、題材はたくさんあるはずですよ。是非とも、ありのままの自分を書き出してみ  
 てください。そしてこの発表会を通じて、すべての学級の絆がより強くなるよう、頑張り  
 ましょう！

★☆☆ ★★★ ☆☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆ ★

6月2日(月)・3日(火) 1年生宿泊訓練



和田武広講演会

『二度とない人生だから③』

それに対して身元調査をするということは、明らかな差別行為ですね。差別をするという、醜い行為ですね。

私は冒頭言いましたように、「差別はいけない」と思っておりました。しかし、現実には部落差別があるというのを知っておりました。結婚の時にいろいろ問題になるのも知っておりました。でも、「自分は差別心はないし、差別はしないから関係ない」と思ってたわけです。でも、目の前で自分の親がこれからさあ差別行為をしようという発言をしたわけです。「調べとかないかな」と。それに対して「母ちゃんそんなことしたらいかんやろ。そんなことは人権侵害や。部落差別するようなことしたらいかんよ」と、キチツと言えただけの学習なり自分のしつかりした信念があれば良かったのですが、私はその当時できなかったのです。母が、

「調べとかないかな」と言えば、私はどう応えたかといいますと、  
「母ちゃん、その点は大丈夫よ。調べると必要ないよ」  
と言ったんです。そしたら母がね、  
「お前、ちゃんと調べとんか」  
と聞き返してきました。  
「いや調べると必要ないよ。あの家は

丈夫や心配せんでいいよ」

と私は応えしました。それを聞くと、母は安心して、

「そうか、それなら良かったなあ」  
それで会話は終わったのです。

もうみなさん方は同和教育の勉強されてるからお気づきのようですが、これはものすごい差別行為ですね。でもその時の私の意識は「差別はいけない、差別はしない」と言いながら、目の前で自分の親がこれから差別行為をしよう、身元調査をしようというときに「そんなことしたらいかん」とキチツと言えずに「調べると必要ない。あの家大丈夫だから」という形で終えたのです。結果的にはその時点で、母は一時的に身元調査をするのをやめたかも知れません。でも、私は母と同じような差別行為をしていたのです。

では、何故私が「調べると必要はないよ」と言ったかといいますと、実は彼女は部落出身じゃないと思ってたんです。別に身元調査したわけでも何でもないですよ。でもそれまで付き合っていた中で「あつ、彼女は部落出身なんかじゃない」と思ってたんです。何故そう思ってたかといいますと、彼女の家は菊間町にあったんですが、非常に大きな檜作りの立派な家でした。例えばおじいさんなんかは、菊間町の町会議員を何年も務められたり、農協の組合長をされたり、その辺の名士でござ

いました。経済的にもゆとりがあるような家でした。

「しつかりした家だ。そんな家が部落であるはずがない」

と、私の偏見でそのように勝手に思ってたわけです。あのままもし彼女が部落出身でなかったら、私はいまだに「差別なんかいいませんよ」「私差別したことごさいません」と言ってるような薄汚い大人になっていたかも知れません。でもその時、キチツとした人権教育も何も受けてなかった私にとっては、そういう意識だったんです。今考えますと、その時にキチツとした対応で「差別はいけない」と言えなかったことが、その後結婚問題でいろいろ問題が起きていった最大の原因であり、自分自身にまず一番問題があると反省しております。そのためにも、皆さんにそういう過ちを繰り返してほしくないという思いで、今日もお話をしておるわけです。

ともあれ、そういうことでうちの両親の方には、結婚の意思を伝えました。それから彼女を家に連れてきました。母は一目見るなり彼女を気に入りました。「ええ子やね、あんなええ子がうちに来てくれるんやったら、何にも言うことないよ」と大変喜んでくれました。そしてそのあと、今度は私が彼女の家に行つて、結婚の申し込みをしたわけです。結婚の申し込みをしますと、

相手先のご両親が、何か態度がおかしいんですね。何か言いたそうだけと言われないんです。感じてわかるんですね。はつきり結婚させて下さいということに対して、イエスともノーともはつきり言わないような、おかしい雰囲気だったんです。「どうもおかしいな」と思

いながら、その家を出てから彼女に電話すると、彼女がちよつと困ったような声をしてるわけです。

「何か都合の悪いことでもあるのか」と尋ねると、

「いや電話ではちよつと言えない」「そしたら明日会つて話そう」

というところで、翌日彼女と会つたわけです。二人きりになって、

「お父さんお母さんどう言ってるの」と言いますと、彼女がしばらくたって、「実は自分は被差別部落出身なんです。お父さんもお母さんも、その事を一番心配しています。絶対相手先の両親は反対するだろう。後でわかつてお前が辛い思いするよりも、先にそれは言つとかないといかん。だから、昨日彼が来たときに、お父さんとお母さんがよつぽと言おうと思つたけど、言えなかつた。お父さんやお母さんからは、あなたのご両親や親戚が必ず反対してくるだろうから、諦めるようにと言われてるんです」

と、このような告白をされたわけです。 つづく